

『朝日大学教職課程センター研究報告』第24号の発刊にあたって

昨年度に続き、2021年度もCOVID-19といかに向き合っていくか、学校教育現場の模索と努力が続いた1年間であった。岐阜県内の公立高等学校では、8月27日に岐阜県に発出された緊急事態宣言を受けてオンライン授業、午前授業、分散登校などが実施された。公立小中学校では、原則全員登校で午前授業が行なわれた。日中は保護者が不在の家庭も多く、義務教育段階の児童生徒を放置することにはリスクがあるとの判断であろうと推察している。昨年度は2か月間の休校に加えて授業のオンライン化もなされたにも拘わらず、児童生徒の顕著な学力低下は見られなかったとする報道を目にした。しかし、社会性の発達という面でコロナ禍が子どもたちに与えた影響が気付きである。

朝日大学では、前学期は感染拡大を受けて途中から対面授業を取り止め、オンデマンド、あるいはオンラインのリアルタイム形式へと切り替えられた。後学期は、原則、対面授業となったものの、感染症への対策や配慮が様々なかたちで図られた。大学教育全体を通じてICTを活用した授業が急速に日常化した。2022年度からは教職課程にも児童生徒に情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための指導法がより明確に位置づけられることとなる。学生の負担感を考慮した柔軟な対応に努めていく必要がある。

教職課程センターの取組に関して特筆すべきは、2021年度、卒業生を含め、教員採用試験の一次を突破する者が6名も現れたことである（現役生2名、卒業生4名）。そして、二次試験に向けて教職課程に関わる教員が休日返上で指導と対策に注力したことも手伝って、3名合格というかつてない結果を残すことができた。こうした成果が、本大学の内部でも正当に評価されるようになることを願ってやまない。

また、2017年度から開発に取り組んできた朝日大学全学教職課程電子履修カルテおよび管理パネルがほぼ完全なかたちで実現し、教職課程に関係する教職員が様々な情報を共有できるようになった。今後は、このシステムを活用し、個々の学生に対する一層きめ細かい指導に生かせたらと思う。7月28日には第8回となる高大連携・接続によるアクティブ・ラーニング研究会を59名の参加を得て成功させた。朝日大学エクステンション・カレッジの企画運営にも中心的役割を果たし、第6期中学生財務塾も順調にこなすことができた。

2022年度には、大学当局の深いご理解と期待のもとに、長年懸案となってきた教職課程センターが5号館1階に現在の4倍以上の広さを確保して移設される予定である。心より感謝申し上げるとともに、有効に活用していくことをお誓いしたい。

結びに、今回も貴重な研究成果をご寄稿いただいた皆さまに厚く御礼申し上げ、巻頭の挨拶としたい。

2022年3月1日

朝日大学教職課程センター長
服部 哲明